

2015年3月期 第1四半期決算説明会

2014年7月31日
TDK株式会社

◆2015年3月期 第1四半期連結業績概要

執行役員 桃塚 高和

◆記録デバイス事業について

専務執行役員 小林 敦夫

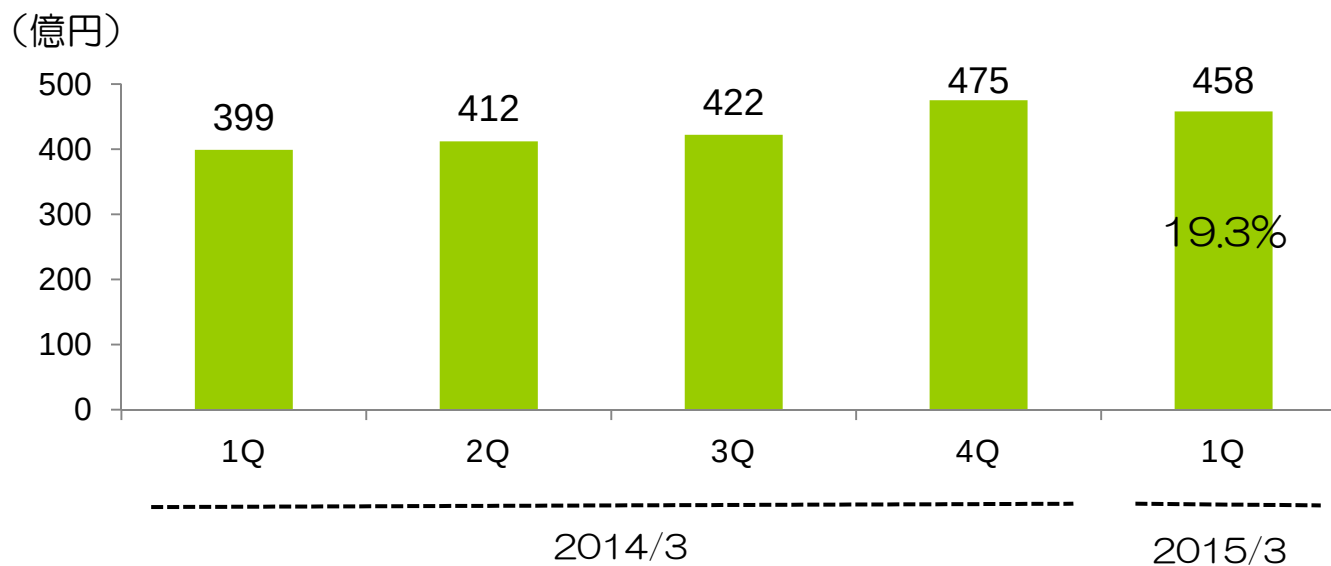
◆高周波部品事業について

専務執行役員 植村 博之

2015年3月期 第1四半期連結業績概要

執行役員
桃塚 高和

- ◆営業利益は前年同期から倍増。
- ◆受動部品の収益大幅改善。営業利益は磁気応用製品を超えて四半期ベースでは過去最高。自動車及び中国スマホ市場向け販売が好調に推移。
- ◆自動車向け売上は、全社売上の19.3%（前年同期比15%増）。



2015年3月期 第1四半期連結業績概要



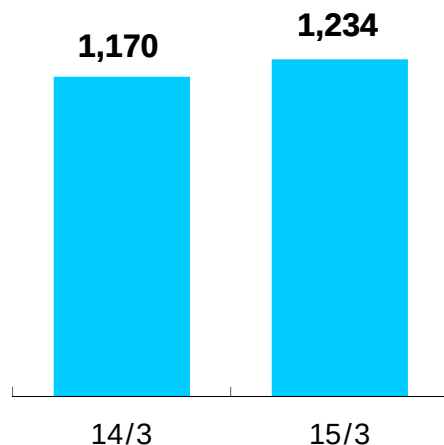
(億円)		2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期実績	対前年同期比	
				増減	増減率(%)
売上高		2,344	2,375	31	1.3
営業利益		45	96	51	113.3
営業利益率		1.9%	4.0%	+2.1pt	-
継続事業税引前利益		52	104	52	100.0
継続事業純利益		15	63	48	320.0
非継続事業純利益		△ 4	-	-	-
非支配持分利益		7	5	△ 2	-28.6
当期純利益		4	58	54	-
1株当たり利益		2円96銭	45円73銭	-	-
為替	対ドルレート	98円74銭	102円17銭	3.5%の円安 8.7%の円安	
	対ユーロレート	128円96銭	140円17銭		
為替変動による 影響金額		売上高：約58億円の増収 営業利益：約10億円の増益			

(注) 2014年3月期に非継続となったデータテープ事業及びブルーレイ事業に係る数値を組替え再表示しております。

第1四半期各事業の状況（受動部品事業）

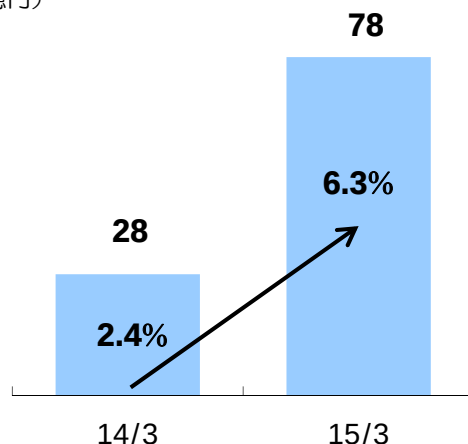
売上高

（億円）



営業利益（営業利益率）

（億円）



売上高 1,234億円（前年同期比5.5%増）

営業利益 78億円（前年同期比2.8倍）

●セラミックコンデンサ

- ・全体売上の約半分を占める自動車市場を中心に前年同期より増加
- ・新製品の売上増や生産性改善効果により利益率も改善

●インダクティブデバイス

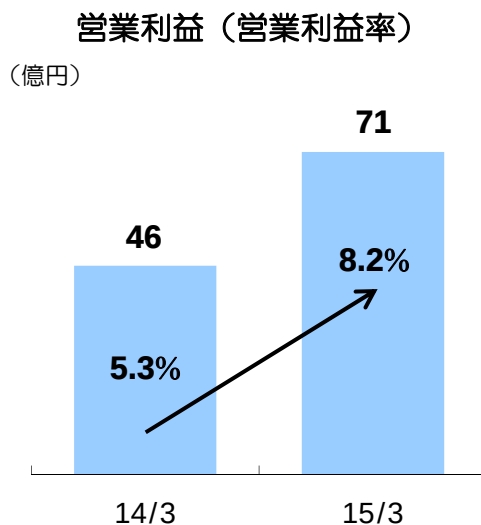
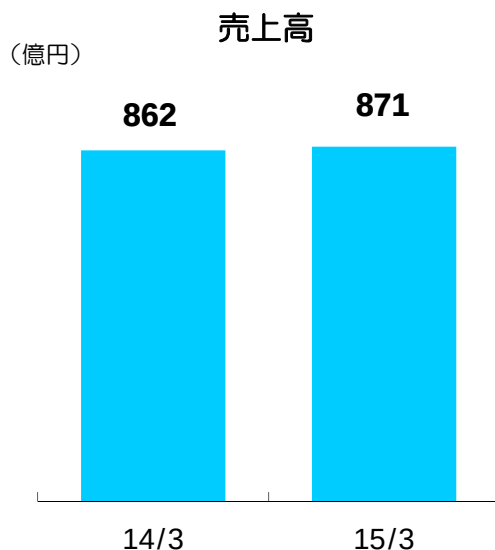
- ・全体売上の約4割を占める自動車市場向け売上が前年同期より増加
- ・品種構成の良化により利益拡大

●高周波部品

- ・競争力のあるディスクリット製品の販売堅調（SAW、温度補正SAW、BAW、積層フィルター）
- ・事業全体の損益も前年同期より改善

●圧電材料部品

- ・カメラモジュール用VCMや自動車向け部品の販売を中心に前年同期比増収増益



売上高 871億円（前年同期比1.0%増）
営業利益 71億円（前年同期比54.3%増）

●記録デバイス（HDDヘッド）

- ・出荷数量は前年同期より減少も、生産性改善効果や品種構成の良化により前年同期より増益

●マグネット

- ・前年同期発生したフェライトマグネットの拠点集約費用がなくなったこと及び設備稼働率の向上により前年同期より赤字が大幅に縮小。
（第4四半期からも収益改善）

●電源

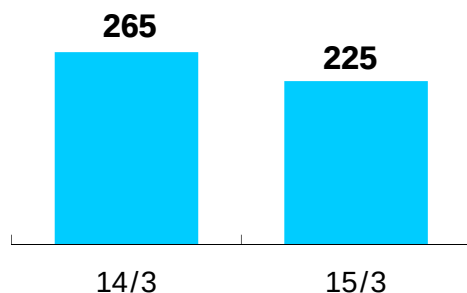
- ・半導体製造装置、FA機器、計測機器等の産業機器市場向け売上は、前年同期比で約2割増加。
- ・黒字転換。

第1四半期各事業の状況（フィルム応用製品事業）



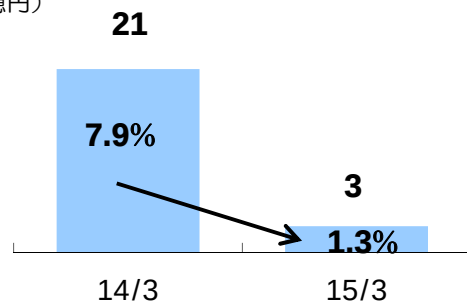
売上高

(億円)



営業利益（営業利益率）

(億円)



売上高 225億円（前年同期比15.1%減）
営業利益 3億円（前年同期比85.7%減）

●エナジーデバイス（二次電池）

- ・主要顧客向け新機種販売前の生産調整により前年同期比減収減益。

セグメント別四半期実績

(億円)		2014年3月期 第1四半期 (A)	2014年3月期 第4四半期 (B)	2015年3月期 第1四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	337	361	365	28	8.3	4	1.1
	インダクティブデバイス	350	349	367	17	4.9	18	5.2
	その他受動部品	483	471	502	19	3.9	31	6.6
	受動部品合計	1,170	1,181	1,234	64	5.5	53	4.5
	記録デバイス	602	612	591	△ 11	△ 1.8	△ 21	△ 3.4
	その他磁気応用製品	260	283	280	20	7.7	△ 3	△ 1.1
	磁気応用製品合計	862	895	871	9	1.0	△ 24	△ 2.7
	フィルム応用製品合計	265	291	225	△ 40	△ 15.1	△ 66	△ 22.7
	その他	47	58	45	△ 2	△ 4.3	△ 13	△ 22.4
	合計	2,344	2,425	2,375	31	1.3	△ 50	△ 2.1
営業利益	受動部品	28	3	78	50	178.6	75	-
	磁気応用製品	46	54	71	25	54.3	17	31.5
	フィルム応用製品	21	11	3	△ 18	△ 85.7	△ 8	△ 72.7
	その他	△ 8	△ 8	△ 4	4	-	4	-
	小計	87	61	148	61	70.1	87	142.6
	全社および消去	△ 42	△ 45	△ 52	△ 10	-	△ 7	-
	合計	45	17	96	51	113.3	79	464.7
営業利益率		1.9%	0.7%	4.0%	+2.1pt	-	+3.3pt	-
為替	対ドルレート (円)	98.74	102.97	102.17				
	対ユーロレート (円)	128.96	141.12	140.17				

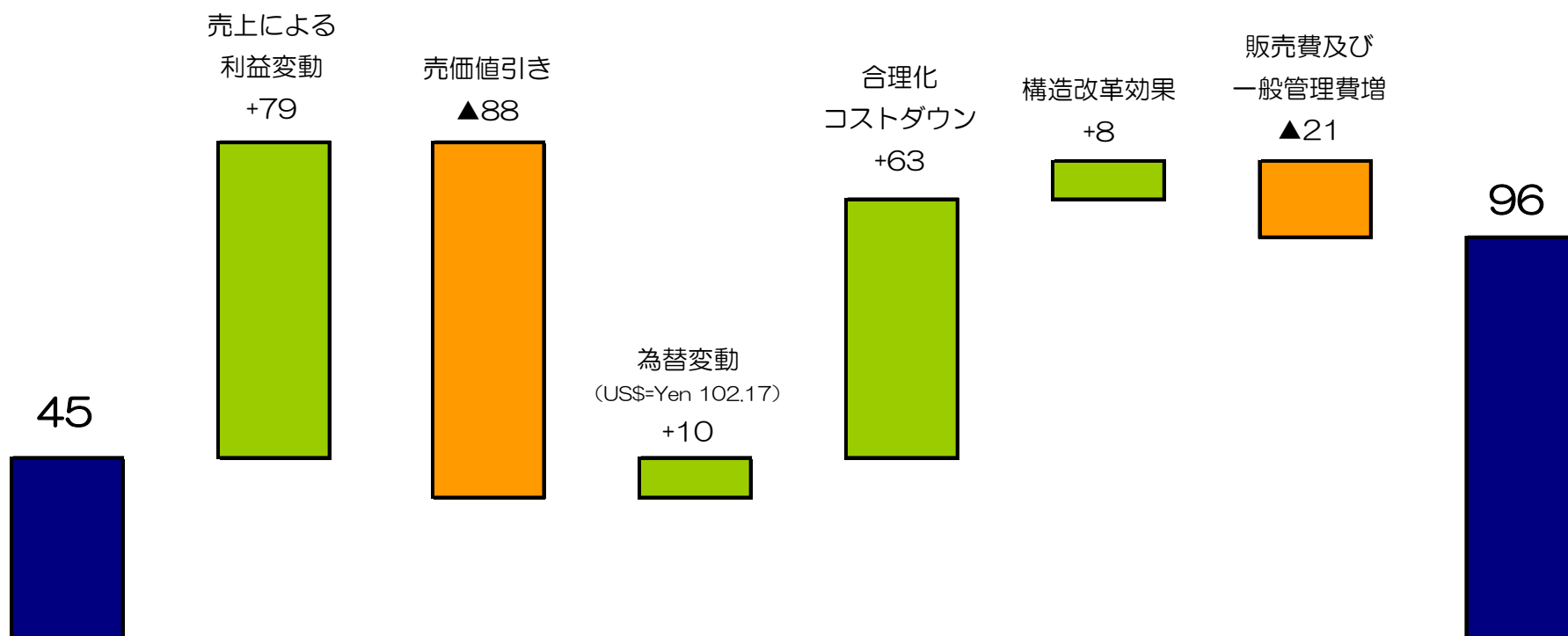
営業利益増減分析

2014年3月期
第1四半期
45億円

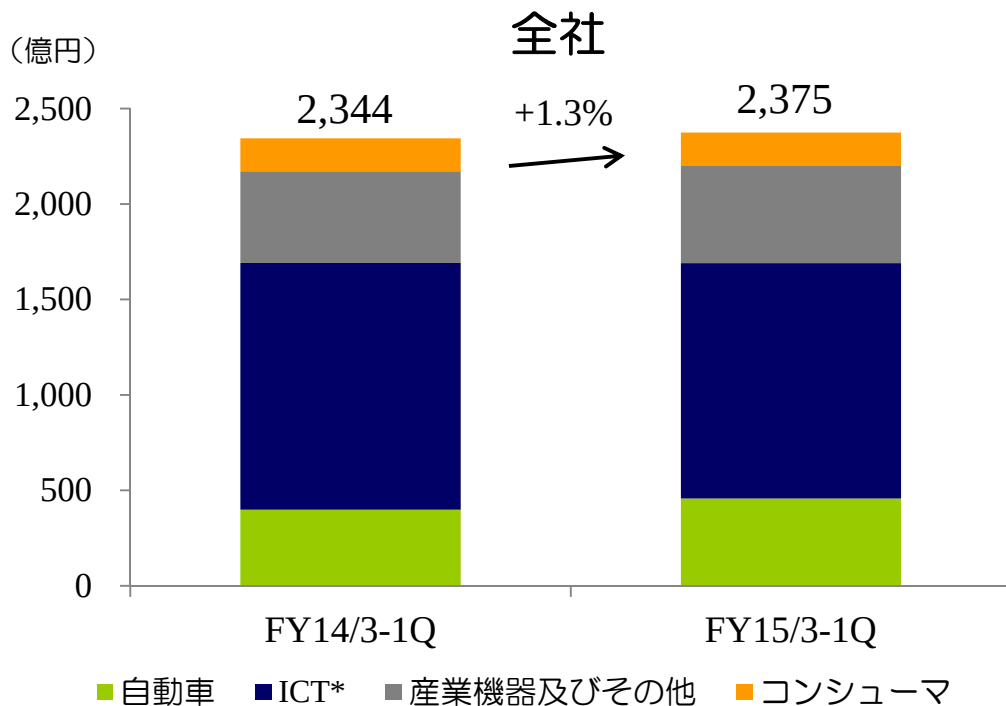
営業利益 +51億円

2015年3月期
第1四半期
96億円

(単位：億円)



重点分野別の売上



* HDDヘッド及びサスペンション含む

自動車：

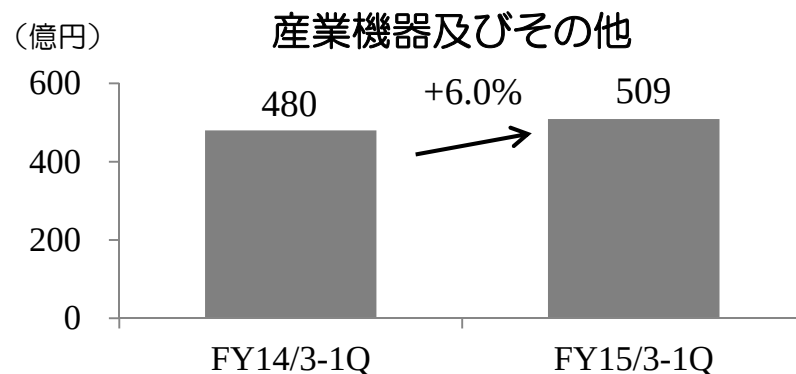
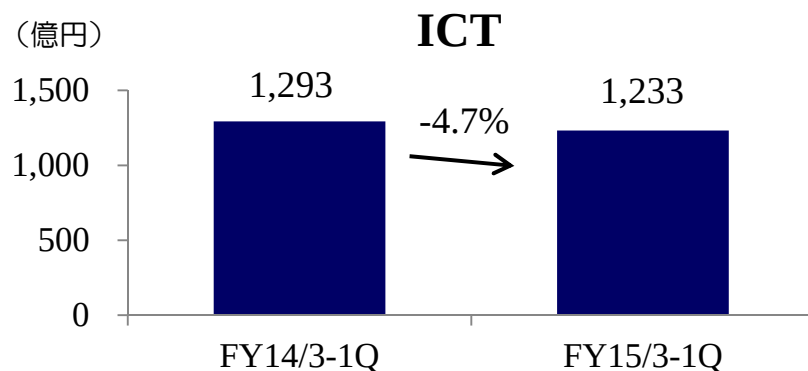
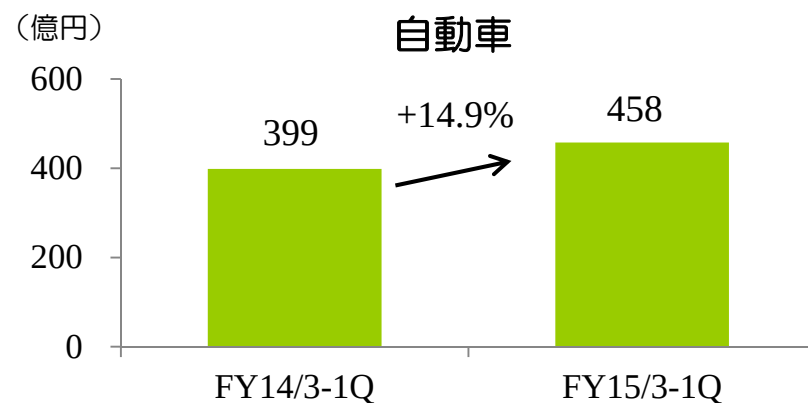
受動部品の売上拡大

ICT（情報通信技術）：

通信機器（スマホ）向け二次電池減少

産業機器及びその他：

産業機器向け電源、受動部品販売好調



第2四半期の売上高増減イメージ

(億円)

セグメント 区分	2015年3月期 1Q実績	2015年3月期 2Q予想 (対1Q)	主な要因・予想の前提
受動部品	1,234	+7%~+8%	ICT市場向け（特に通信機器市場）及び 自動車市場向け各種製品の販売拡大
磁気応用製品	871	±0%	HDD市場の成熟化
フィルム 応用製品	225	+40%+ α	ICT市場向け二次電池の販売増 (主要顧客の新機種立上げに伴う販売増)
その他	45		
合計	2,375	+7%~+9%	

為替前提

為替レート \$/Yen 102.17
為替レート EURO/Yen 140.17

100.00
135.00

2015年3月期 連結業績予想及び配当金見通し



期初公表値（4月28日）から変更なし

(億円)		2014年3月期 通期実績	2015年3月期 業績予想	対前年同期比	
				増減	増減率(%)
売上高		9,845	10,500	655	6.7%
営業利益		366	570	204	55.7%
営業利益率		3.7%	5.4%	+1.7pt	-
継続事業税引前利益		398	560	162	40.7%
当期純利益		163	340	177	108.6%
1株当たり利益(円)		129.47	270.23	-	-
配当金(円)		上期：30円（実績） 下期：40円（見通し） 年間：70円（見通し）	上期：40円 下期：40円 年間：80円	-	-
為替	対ドルレート	100円26銭	100円	-	
	対ユーロレート	134円42銭	135円	-	

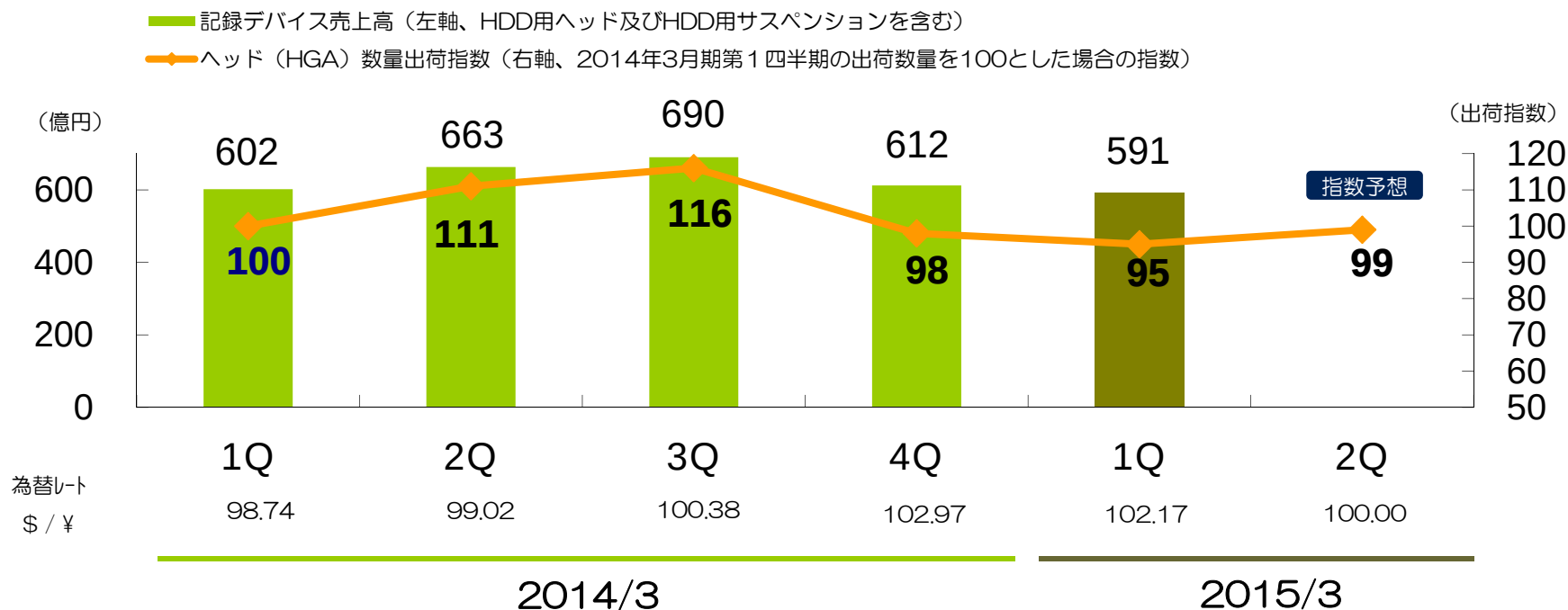
記録デバイス事業について

専務執行役員
小林 敦夫

◆直近のHDD（ハードディスク）市場

- ・2014年3月期（前期）：約5.52億台（通期決算説明会時推定）
- ・2015年3月期（今期）：約5.35億台（通期決算説明会時想定）
- ・2015年3月期（今期）：約5.52億台（現在想定、前回より1,700万台増加）

◆当社のHDDヘッド出荷指数推移



中長期のHDD市場

市場内のアプリケーションの変化



PC需要が減少



データセンタ需要が増加

タブレット端末（SSD使用）等の増加

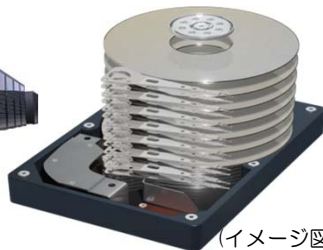
• 世界でデータ量が増加
• クラウド化
• データセンタにおける消費電力の増大も課題



HDD1台あたりのヘッド数量の変化



1～4本/1台



(イメージ図)

6～14本/1台

データセンタ用のHDDはヘッドの使用本数が多くなる



世界唯一のHDDヘッド専門メーカー。
業界の最先端品（世界最高の記録密度）
を継続的に市場に投入できる研究開発力と
製造能力を保有

- 需要が拡大するデータセンタ向けHDDは
今後も記録容量の増大が必須。これに伴い
HDD当たりのヘッド使用量も増加。
- エンタープライズやニアライン等のデータセンタ
市場は、継続的に最先端品が投入される市場
⇒ **TDKが貢献できる市場**
- 新製品の投入

今後も新しい製品を投入!

熱アシスト
ヘッド

次世代
読込ヘッド

マイクロDSA

中長期的にも記録デバイス事業
全体として安定的な収益を実現

高周波部品事業について

専務執行役員
植村 博之

ターゲット市場



市場環境

- TD-LTE開始⇒4G端末生産急増
- 3→5モード化で員数増加

- スマホ中心のハイエンド機種やタブレット端末の生産低調

- 新機種発売前の生産調整
→2Qより新機種立上げ

活動状況

リファレンスデザインによる
刈取り、置換えの活動強化

ディスクリート製品の受注販売急増
(SAW, TC-SAW, BAW, 積層フィルタ)

モジュール製品の新規承認取得済み
既存モジュール製品のシェアアップ

2Q以降は主要顧客生産動向がポイント
No.2顧客への販売拡大

モジュール製品の新規受注開始
PAモジュール向け拡販強化

ディスクリート製品、モジュール製品
2Qより販売拡大

事業戦略

- ◆ ICメーカーへの活動強化し、リファレンスシェア拡大
- ◆ 競争力あるディスクリート製品群を更に強化し、市場シェア拡大
- ◆ 小型パッケージ製品の開発、投入により、モジュールの市場シェア拡大
- ◆ 生産性改善の継続

補足資料

売上高及び営業利益の四半期推移



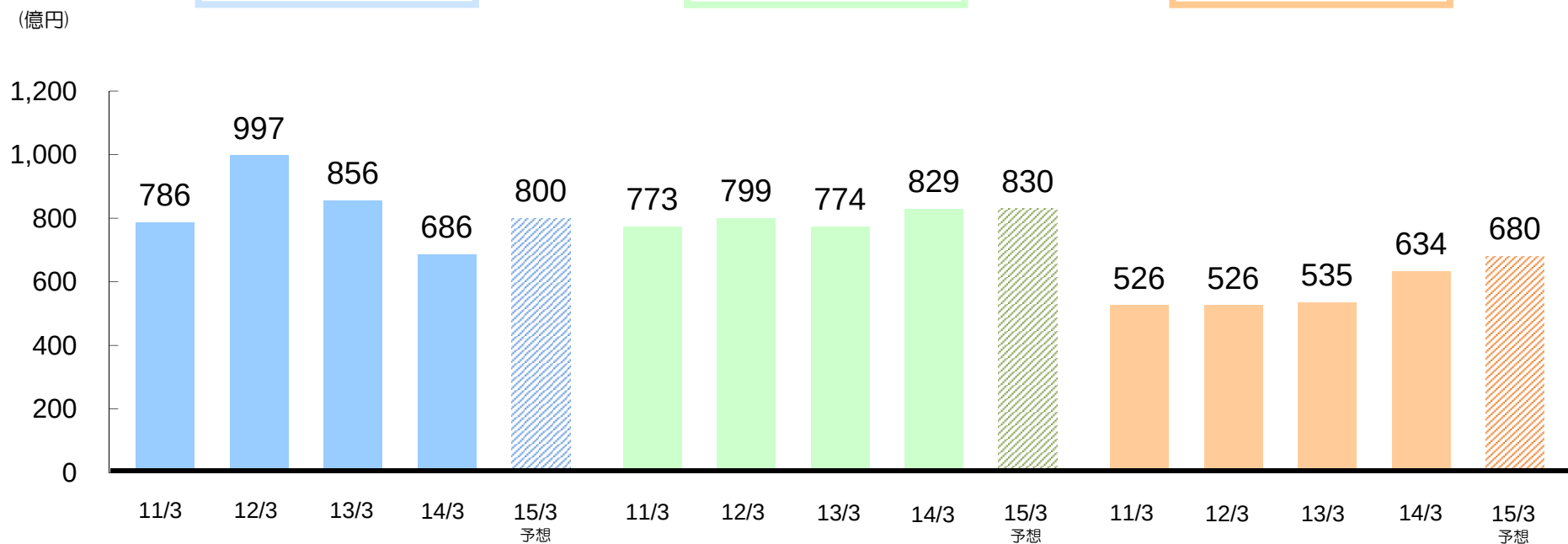
(億円)		2014年3月期					2015年3月期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	コンデンサ	337	351	347	361	1,396	365				
	インダクティブデバイス	350	355	349	349	1,403	367				
	その他受動部品	483	488	475	471	1,917	502				
	受動部品合計	1,170	1,194	1,171	1,181	4,717	1,234				
	記録デバイス	602	663	690	612	2,567	591				
	その他磁気応用製品	260	266	268	283	1,077	280				
	磁気応用製品	862	929	957	895	3,643	871				
	フィルム応用製品	265	327	410	291	1,293	225				
	その他	47	44	43	58	193	45				
	合計	2,344	2,494	2,582	2,425	9,845	2,375				
営業利益	受動部品	28	62	61	3	154	78				
	磁気応用製品	46	78	103	54	281	71				
	フィルム応用製品	21	33	68	11	134	3				
	その他	△ 8	△ 8	△ 8	△ 8	△ 32	△ 4				
	小計	87	165	224	61	537	148				
	全社および消去	△ 43	△ 40	△ 44	△ 45	△ 171	△ 52				
	合計	45	125	179	17	366	96				
為替	対ドルレート (円)	98.74	99.02	100.38	102.97	100.23	102.17				
	対ユーロレート (円)	128.96	131.11	136.56	141.12	134.42	140.17				

2015年3月期各種費用見通し

固定資産の取得

減価償却費

研究開発費



財政状態

(億円)	2014年3月末	2014年6月末	増減	(参考) 2013年6月末
総資産	12,396	12,413	17	12,240
負債合計	5,873	6,052	179	6,150
株主資本	6,353	6,182	△ 171	5,887
(うち包括利益)	△ 871	△ 968	△ 97	△ 1,270
株主資本比率	51.3%	49.8%	-1.5pt	48.1%

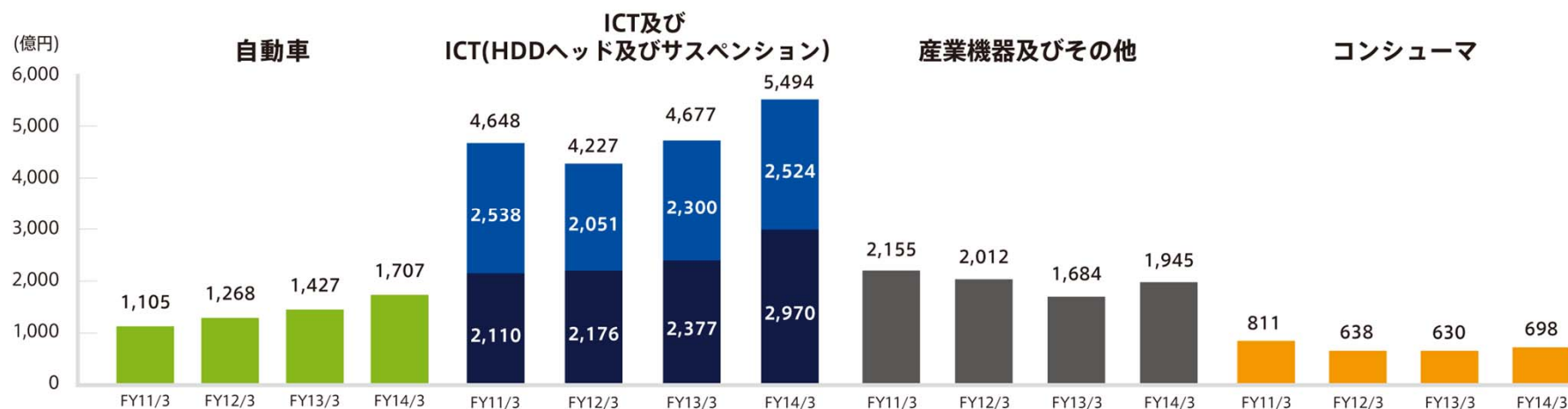
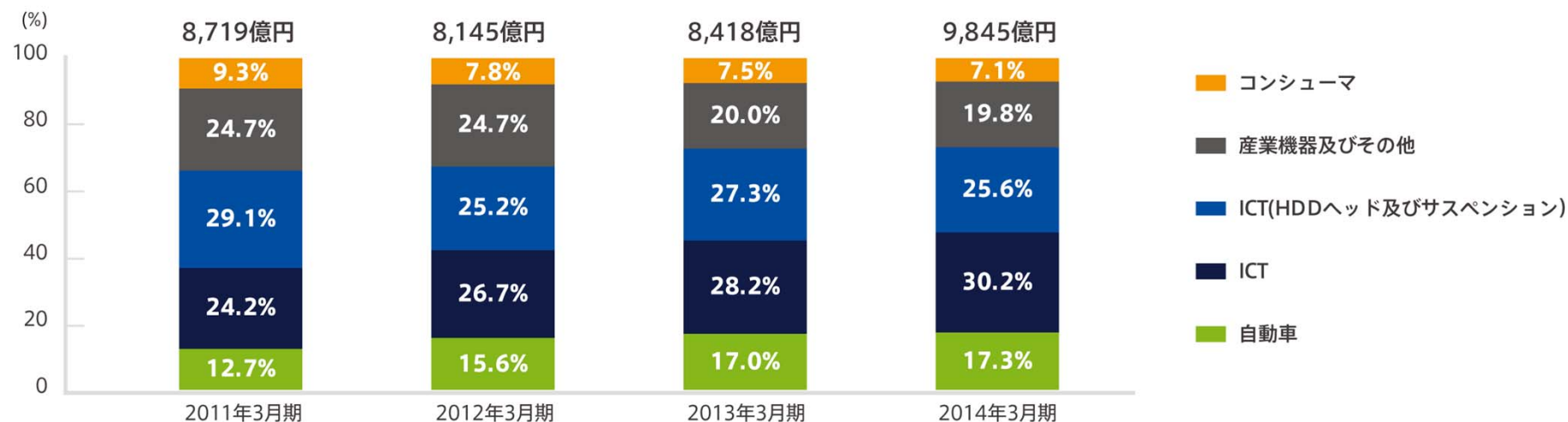
現預金・短期投資残高	2,595	2,575	△ 20	2,448
有利子負債	2,670	2,818	148	3,044
ネットキャッシュ	△ 75	△ 243	△ 168	△ 596

	2014年3月期 第1四半期実績	2015年3月期 第1四半期実績	増減
固定資産の取得	144	204	60
減価償却費	207	197	△ 10

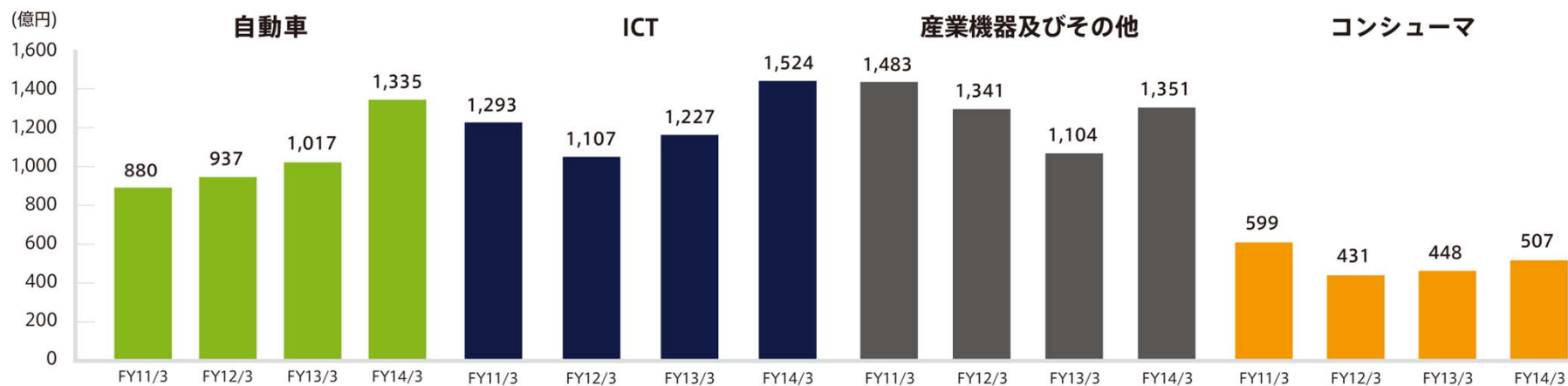
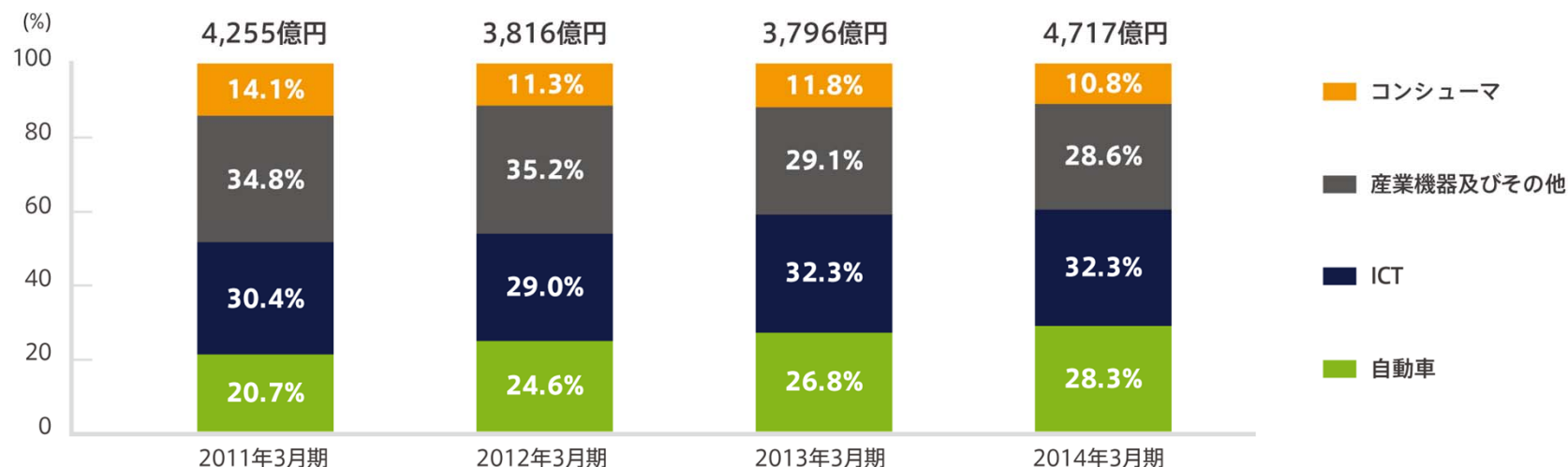
	2014年3月期 第1四半期実績	2015年3月期 第1四半期実績
(億円)		
営業活動によるキャッシュフロー	228	187
投資活動によるキャッシュフロー	△ 160	△ 185
フリーキャッシュフロー (FCF)	68	2
財務活動によるキャッシュフロー	27	17
為替変動による影響額	100	△ 34

現金同等物残高	2,331	2,493
---------	-------	-------

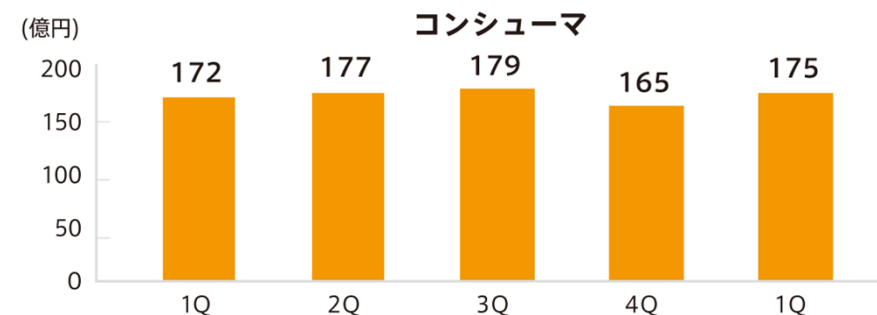
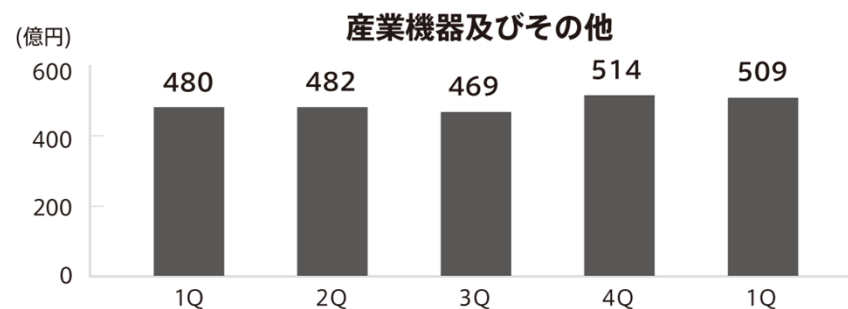
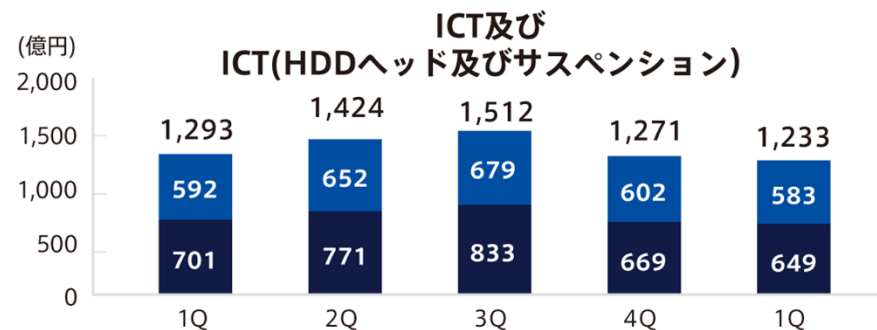
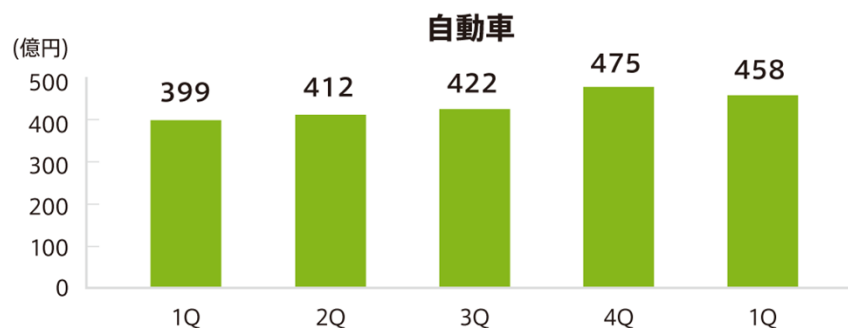
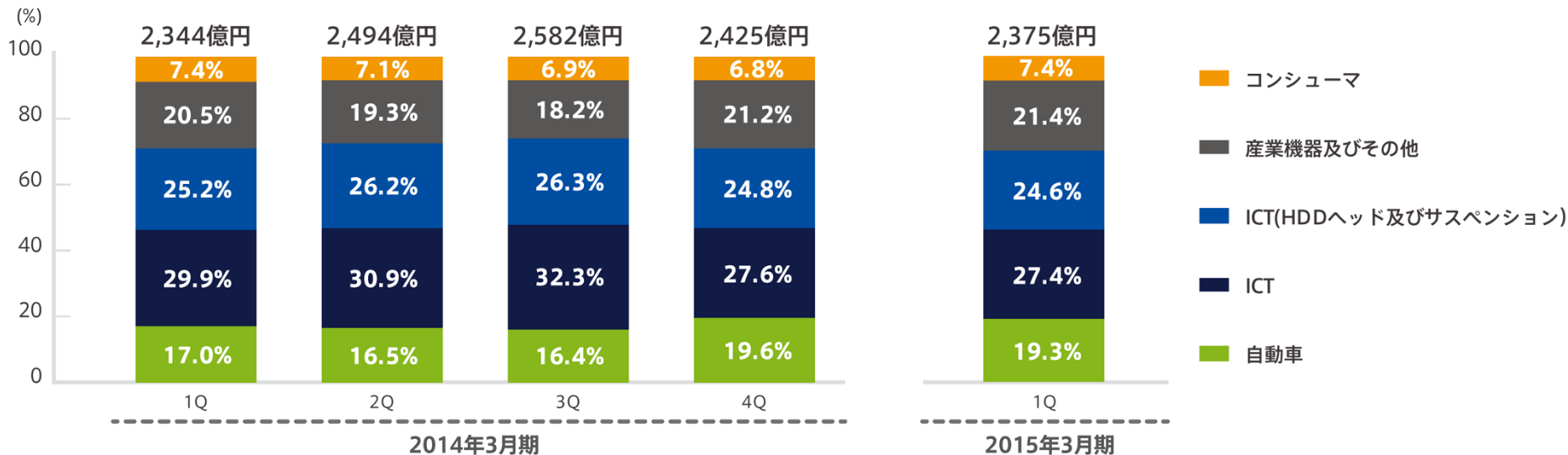
全社 分野別通期売上高推移 (2011年3月期～2014年3月期)



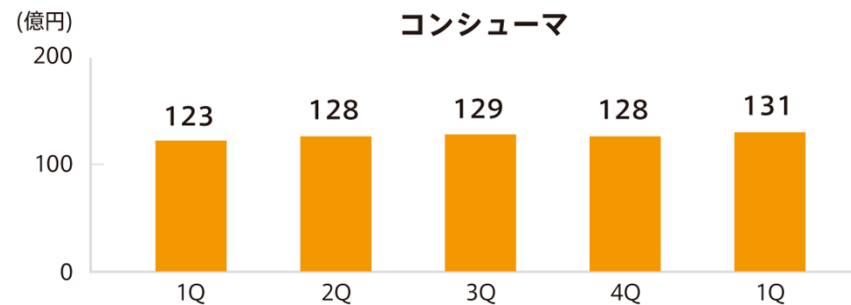
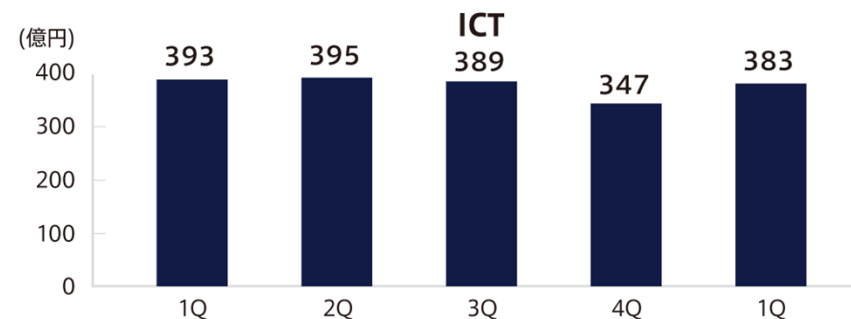
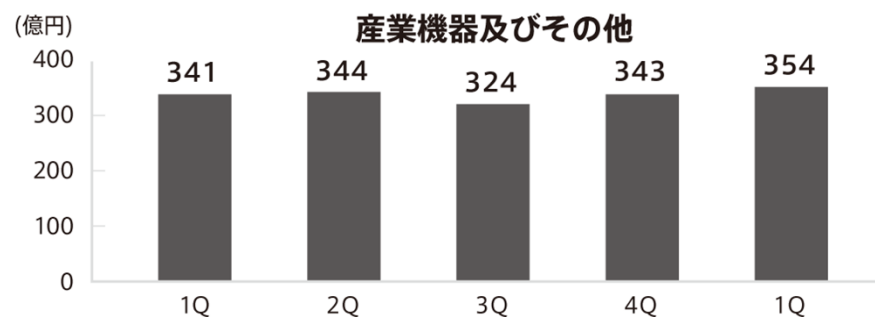
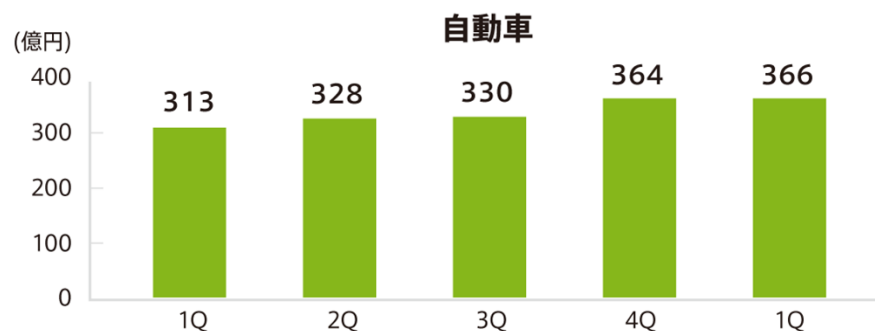
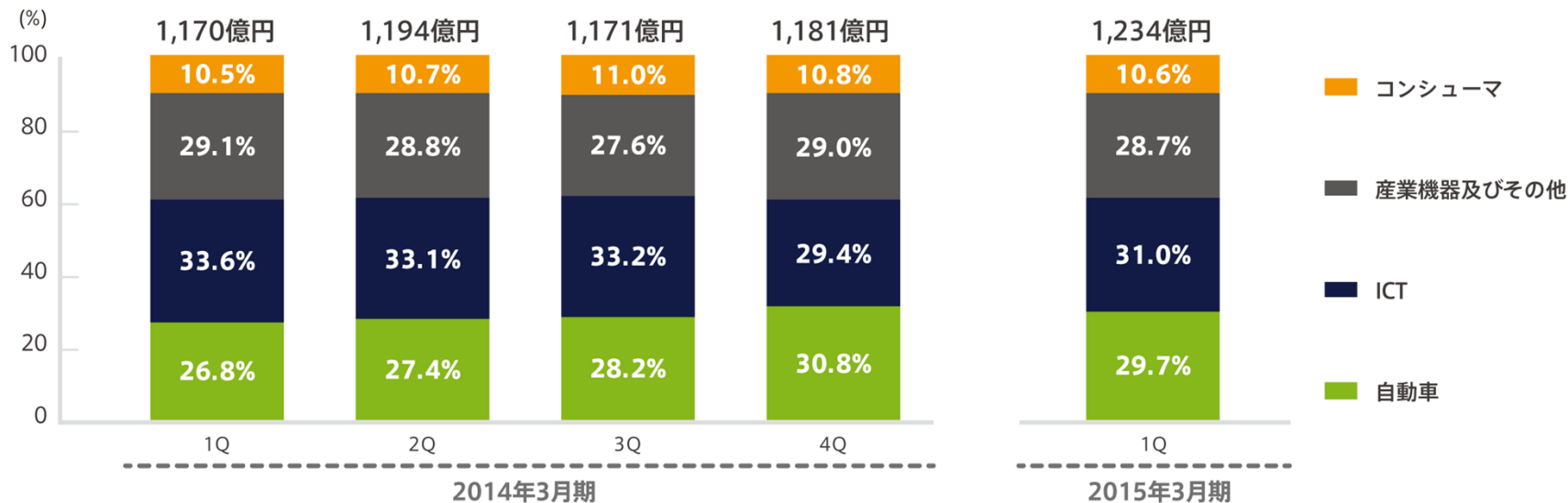
受動部品 分野別通期売上高推移 (2011年3月期～2014年3月期)



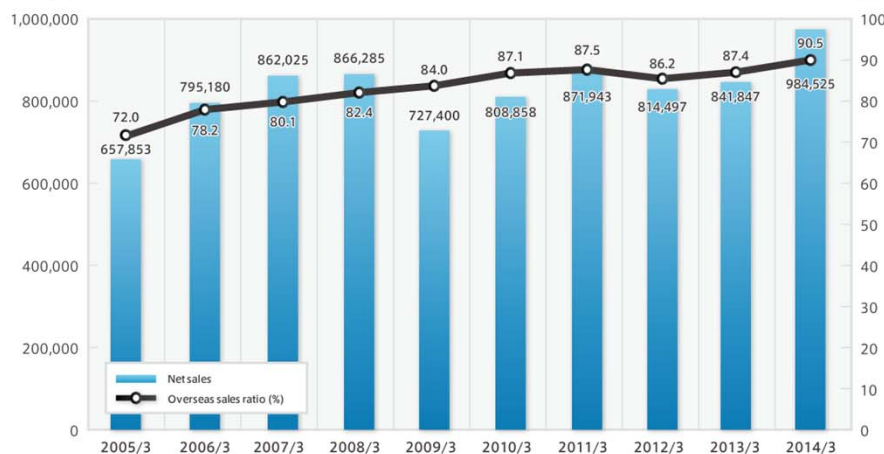
全社 分野別四半期売上高推移 (2014年3月期1Q～2015年3月期1Q)



受動部品 分野別四半期売上高推移 (2014年3月期1Q～2015年3月期1Q)



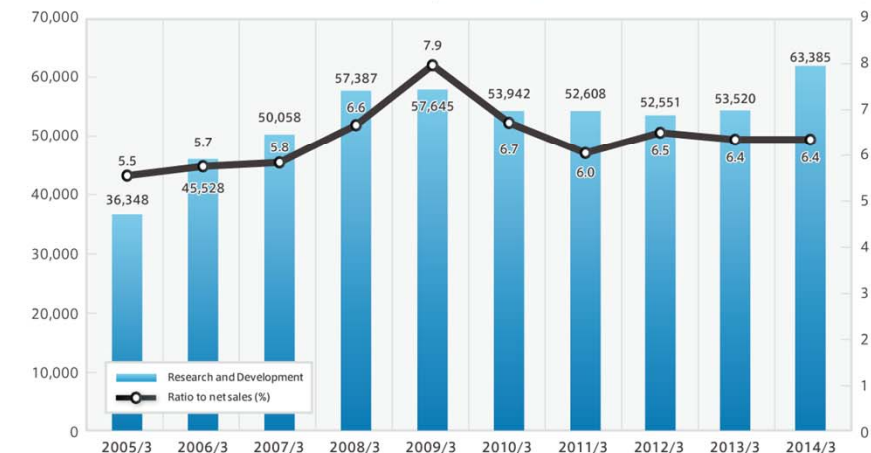
(Millions of yen) **Net Sales & Overseas Sales Ratio**



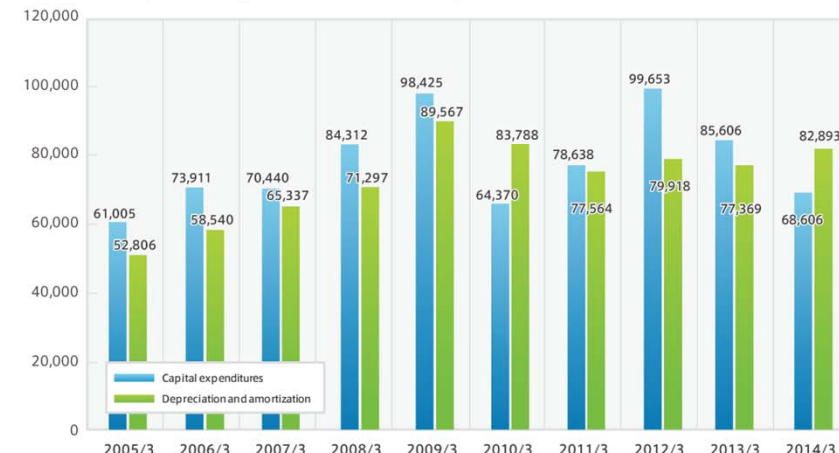
(%) (Millions of yen) **Operating Income, Net Income & Operating Income Ratio**

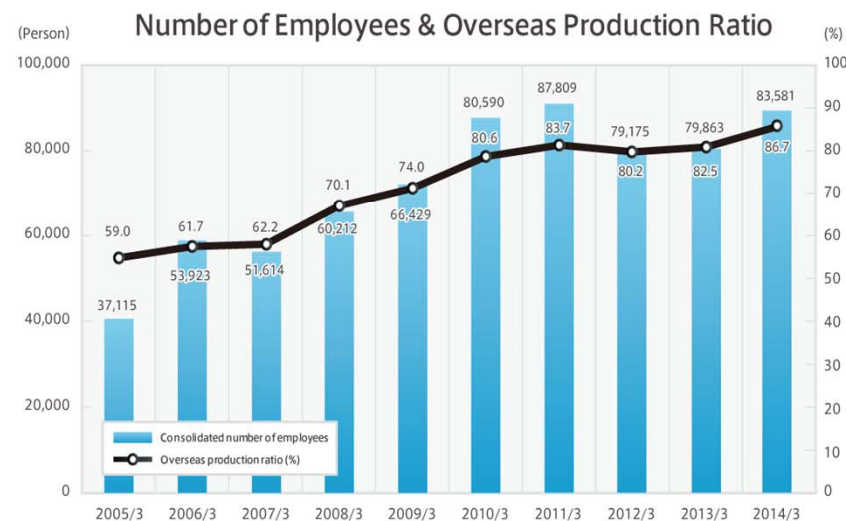
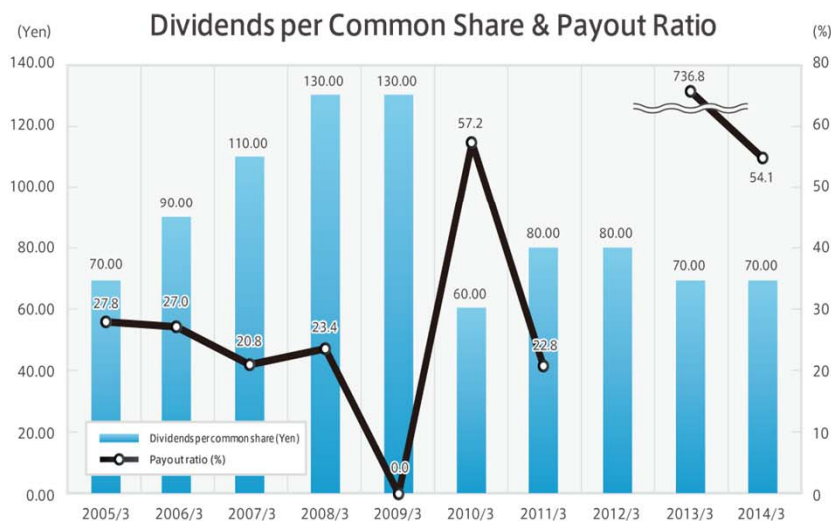
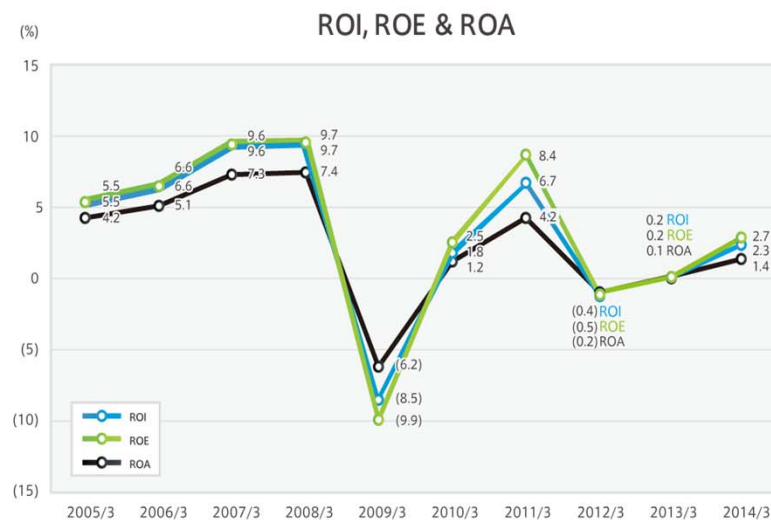
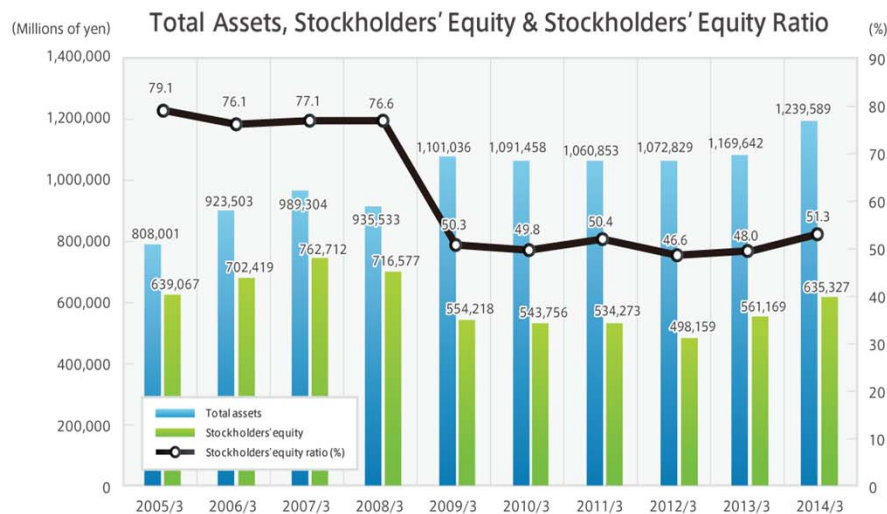


(Millions of yen) **Research and Development & Ratio to Net Sales**



(%) (Millions of yen) **Capital Expenditures & Depreciation and Amortization**





この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2015/1q_1.htm